

教室だより（各学年・専科より）

1年生

国語の「じどう車くらべ」の学習ではたくさんの自動車の仕事やつくり（特徴）を学習しました。教科書にある車だけではなく、家にある車のおもちゃや図鑑を持ち寄って楽しく学習を進めました。しかし、何といても圧巻は、校庭の工事現場に入れてもらって、本物のショベルカーを目の前で見せてもらったことです。大きなショベルで土を掘ったり、車体を回転させてその土をトラックに積み込んだりする様子に、皆目を輝かせ見学の時間はあっという間に過ぎてしまいました。（子供達以上に担任が大喜びだったとの声も・・・）

本から模型から映像から、そして本物から得た知識で、学習のまとめは「じどう車クイズ作り」。楽しい全校での遠足が終わったら、お世話になっている6年生に、お礼を兼ねてクイズを出しにいく予定です。「うまく出せるかな」と今からドキドキわくわくしています。

2年生

2年生は、生活科見学に行きました。見学のテーマは「自分で考え、行動しよう!」です。「みんなの力で駅まで行けるかな?」地図と旗を手にグループ毎に学校を出発し、高野台駅から電車に乗りました。「あっ、先生がいたよ!」自分たちの力で石神井公園駅に到着した時の子供達の表情は、自信に満ちあふれていました。石神井公園では、まるで谷原っ子を歓迎してくれているかのように色々な生き物が現れ、どきどきわくわくの連続だったようです。ふるさと文化館のかやぶき屋根の家、「日本一の畳です。」と聞き、噛みしめるかのように自然とハイハイしている子供達の姿が、とても印象的でした。帰りのバスでは、2年生全員で1台のバスに乗り込みました。「ギューギューづめだ!」「お父さんも会社に行く時にこんな思いをしているんだね。」と、おうちの人の日々の苦労もほんの少し味わい、充実した日になったようです。

3年生

3年生は、国語の「すがたをかえる大豆」で学んだことを活かし、自分で調べた「すがたをかえるもの」を文章にまとめました。兄弟学年の5年生に各自が書いた「食べ物のひみつ」を発表しました。5年生は、真剣に聴き、一人一人にアドバイスや感想を伝えてくれました。3年生にとってとてもよい学習になりました。

社会科では、キャベツ畑を見学しました。普段食べているキャベツがどのように育てられているのか、農家の人たちがどのような工夫や苦勞をしているのかを学びました。

総合的な学習の時間で育てている農園の「練馬大根」は、順調に育っています。

4年生

学校公開の日に、稲荷山図書館とねりま子どもと本のネットワークの方々に「本の探検ラリー」を体験させていただきました。問題用紙を読み、その答えが載っている本を読んで答えを見つけ、正解するとスタンプや認定証がもらえる、という活動です。家族の本、友だちの本、世界が見える本、自分を見つめる本など、様々なジャンルに分かれているので、普段は好きなジャンルに偏りがちな子ども様々な本を手にとって読むことができました。「谷原小の4年生は、読書に意欲的ですね。」とほめていただきました。お手伝いをしてくださった保護者の皆様のおかげでこのような体験ができました。ありがとうございました。

5年生

今月も5年生にとってとても忙しい月になりそうです。まず、1日は練馬文化センターで行われる練馬区連合音楽会に参加します。合唱と合奏の2曲を発表します。2日の全校遠足では、兄弟学年の3年生のお世話をしながら楽しいひとときを過ごします。10日には、来年度の就学予定児童の健診が予定されていますが、そのお手伝いを来年度6年生になる現5年生がします。25、26日には、2年に一度の展覧会があります。5年生は、立体作品及び共同作品としてコリントゲーム《コロコロランド》を展示します。平面作品としては、江戸時代の画家・俵屋宗達作《風神雷神》の模写絵を出品します。また、家庭科作品としては《ナップザック・トートバッグ》を出品します。初めて糸と針を使って縫い上げた作品をご覧ください。

6年生

11月の全校遠足に向けて、兄弟学年との交流が始まりました。お弁当給食や遠足の相談でお兄さんお姉さんとして、心配りをしたり、1年生の目線と一緒に遊ぶ姿が微笑ましかったです。

また、9月は1組、10月は2組と各クラス持ち回りで、子供達が企画した学年集会を行いました。10月はちょうど学校公開の日で、参観されたお母様方も入ってくださり、楽しい1時間になりました。

平成23年度 谷原小学校展覧会 11月25日（金）、26日（土） 図工専科 吾妻 彰
テーマ「表そう 自分の気持ちを、 感じよう いろいろなおもいを」

子供達は、いろいろなモノと出会い、心動かされ作品づくりなどの造形活動をしています。そのモノとは、様々な材料であったり、いろいろな道具や技法であったり、昔の名画の鑑賞だったりもします。きっかけは様々ですが、モノとの出会いから心の内なるものがムクムクっと動き出し、手がいつのまにか何かをつくっていたり、描いていたりにしているのです。いくつかの制約がなければ、自分の気持ちやおもいを表現するという人間の本能ともいえるでしょう。特に子供達の感受性はとても豊かで、絵や模様を描いたり、つくることに夢中になっていたりする子供達の目はとても真剣でキラキラと輝いています。また作品が出来上がった時の表情は満足した最高の笑顔です。

今回の展覧会では、子供達への願いをこめて、自分の気持ちや、自分らしさを精一杯表現すること、友達や人の作品を鑑賞する時に、作った人の思いや、良いところをたくさん感じとれるようにとテーマを設定しました。

展覧会では、あくまで造形活動の結果として作品が並び展示されますが、モノとの出会いから始まり、自分の気持ちや思いを表現しようと試行錯誤した子供達の制作過程のこと、見えない部分のことまで想像して作品を見て頂けたら幸いです。

